

平成30年度総合教育会議の協議結果に基づく取組の進捗状況（報告）

○ 平成30年度のテーマ

グローバル化に対応できる人づくりに向けて

○ 協議を行っていく中で整理された、教育的取組を行う際の視点

- 1 子どもたちの「思いやり」や「おもてなし」の心を育成する教育の推進
- 2 子どもたちが多様な価値観や文化を尊重し、外国人と主体的にコミュニケーションを図ることができる教育の推進
- 3 子どもたちがスポーツの魅力に触れ、言語や障害の壁を越えて交流することができる教育の推進

○ 主な取組の進捗状況

1 「思いやり」や「おもてなし」の心を育成する道德教育の推進（学習指導課）

「千葉県道德教育の基本方針」を改定することとし、「思いやり」や「おもてなし」の心を育む視点を入れ込む方向で内容を検討している。

改定に当たっては、幅広く意見を聞くための有識者による懇談会を設置し、第1回を6月26日（水）に開催した。

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い、オリパラ教育と連動した道德映像教材（DVD版）を作成し全ての公立小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に配付する予定である。

2 自国や他国の歴史や伝統文化についての理解を深める教育の充実（教育政策課）

本年度は、オリパラ教育推進校（65校）全校でグローバル・プロジェクトを必須とし、自国の歴史伝統文化について理解を深め、他国の歴史や文化、言語について学び、世界を舞台に活躍する児童生徒の育成を目指した活動に取り組んでいる。

県立流山おおたかの森高等学校では、インドネシアから38名の高校生を招き、日本の文化体験として、生徒と一緒に「書道」や「浴衣の着付け」を行った。インドネシアの高校生1名に対して生徒1名がつき英語でわかりやすく説明した。

日本の伝統文化を双方が理解する貴重な時間となった。



3 国際大会観戦・応援機会の支援（事前キャンプ・大会競技支援課）

「県内開催競技観戦・応援促進事業」を新規に実施し、児童・生徒を対象に、県内で開催する4つの国際大会の観戦実施及び観戦に係る学習（外国語での応援の練習や応援メッセージの作成等）の支援を行う。

令和元年5月には「シッティングバレーボールチャレンジマッチ 2019」に、公立7校延べ約680名の児童生徒が観戦した。

市立習志野高等学校の生徒が各チームに分かれて各国の母国語を使って応援したり、一宮町立東浪見小学校の児童たちが各国の言語による応援メッセージを記した手作りの横断幕を掲げながら声援を送る等、言葉の壁を超えた交流を図った。